

授業科目名	協同学習論	教員名	未定	免許・資格との関係	小学校教諭	
授業形態	講義	担当形態	単独		幼稚園教諭	
科目番号	SID319	配当年次	3年後期	卒業要件	保育士	
単位数	2単位				こども音楽療育士	
科目	大学が独自に設定する科目（小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等						
一般目標	<p>この授業のテーマは、近年注目されている学習理論である協同学習についての考え方を学び、実際の教育現場で活かせる協同学習の技法を体験的に学ぶことである。この授業の一般目標は以下の3つである。</p> <p>(1) 協同学習の基本的な考え方と協同学習が重視されるようになった背景を学習指導要領との関係から理解する</p> <p>(2) 協同学習の技法を実際にロールプレイすることで体験的に理解する</p> <p>(3) 協同学習の技法を実際の教育現場で使用するときの留意点について理解する。</p>					
到達目標	<p>(1) 協同学習の基本的な考え方と協同学習が重視されるようになった背景を学習指導要領との関係から理解する</p> <p>1) 学習指導要領において協同学習が重視される理由について説明できる</p> <p>2) 一斉学習や単なるグループ学習と協同学習との違いについて説明できる</p> <p>3) 協同学習を成立させるための教師の役割について理解している</p> <p>(2) 協同学習の技法を実際にロールプレイすることで体験的に理解する</p> <p>(3) 協同学習の技法を実際の教育現場で使用するときの留意点について理解する</p>					
授業の概要	<p>協同学習は、グループダイナミックス、認知心理学等の実証科学を基盤とした近年特に注目されている学習指導法の理論である。この授業では、まず学習指導要領を基に、どうして近年、協同学習が重視されるようになったかについての背景と協同学習の基本的な考え方を学び、その後に実際の協同学習の技法についてロールプレイを用いて体験することで、教育現場で実践的に使用する技術を身につける。授業形態は講義であるが、教員からの一方向の講義のみに終始するのではなく、その多くを協同学習によるアクティブ・ラーニングで学習する。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している</p>					
履修条件・注意事項	特になし					
授業計画	<p>第1回：自己紹介の方法から協同学習とは何かについて説明する。(目標(1)-2), (2))</p> <p>第2回：協同学習が重視されるようになった背景を現代社会の特徴と学校の役割の変化から説明する。(目標(1)-1)</p> <p>第3回：協同学習が重視されるようになった背景を「資質・能力」の学力観の台頭という視点から解説する。(目標(1)-1)</p> <p>第4回：協同学習が重視されるようになった背景を学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」との関係から概説する。(目標(1)-1)</p> <p>第5回：協同学習が重視されるようになった背景を学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」との関係から説明する。(目標(1)-1)</p> <p>第6回：協同学習が重視されるようになった背景を学習指導要領における「カリキュラム・マネジメント」との関係から概説する。(目標(1)-1)</p>					

	<p>第7回：協同学習の基礎を仲間づくりの創意工夫という観点から実際に協同学習を体験させる。(目標(1)-2) , (2))</p> <p>第8回：協同学習の基礎としての傾聴とミラーリングをラウンドロビン、シンク=ペア=シェアという技法からそれらを実際に体験させる。(目標(1)-2) , (2))</p> <p>第9回：協同学習の目的について、協同の精神を中心に概説する。(目標(1)-2) , (2))</p> <p>第10回：協同学習の特徴を、個人思考と集団思考の循環という観点から体験的に説明する。(目標(1)-2) , (2))</p> <p>第11回：協同学習の基本要素を、ジョンソンの基本要素とケーガンの基本要素について学び、両者の違いについて説明する。(目標(1)-2) , 3), (2))</p> <p>第12回：協同学習のうちジグソー法の考え方とその手順を体験的に解説する。(目標(1)-2) , 3), (2))</p> <p>第13回：協同学習のうちジグソー法以外の代表的な技法について、その考え方とその手順を体験的に説明する。(目標(1)-2) , 3), (2))</p> <p>第14回：協同学習のうち理想的な学習法・対話法であり且つ論理的な言語能力の育成法であるLTD話し合い学習について、その考え方とその具体的な進め方について体験的に解説する (目標(1)-2) , 3), (2))</p> <p>第15回：協同学習の技法を実際の教育現場で使用するときのメリット・デメリットについて説明する (目標(3))</p> <p>定期試験</p>
学生に対する評価	<p>授業中の取り組みの様子、課題として提出するレポート等の内容、学期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合は協同学習に取り組む態度30%、レポート30%、定期試験の成績40%とする。なお、課題等のフィードバックについては、授業中に口頭で行う。</p>
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。</p>
テキスト	<p>杉江修治 編著 「協同学習がつくるアクティブ・ラーニング」 明治図書</p>
参考書・参考資料等	<p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安永 悟・須藤 文 著 「LTD話し合い学習法」 ナカニシヤ出版 ・安永悟 著「授業を活性化するLTD～協同を理解し実践する紙上研修会」 医学書院 ・ジョンソン, D. W. ・ジョンソン, R. T ・ホルベック, E. J. 著 石田裕久・梅原巳代子 訳 「学習の輪—学び合いの協同学習入門—」 二瓶社 ・杉江修治 著 「協同学習入門—基本の理解と51の工夫—」 ナカニシヤ出版 ・参考資料等：適宜提示する。
担当者からのメッセージ	<p>授業への主体的な参加を期待します。</p>
オフィスアワー	<p>メール等で連絡をしてアポを取ること。</p>